

平成19年12月28日

各府県山岳連盟

会 長 様

理 事 長 様

国体委員長 様

滋賀県山岳連盟

会長 國松 嘉



平成19年度競技部別ブロック研修会について（依頼）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、当連盟に格別のご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、日山協より通知のありました標記の研修会を別紙要項の通り開催致します。今回の研修におきましてはボルダリング競技の導入にともない新たに競技運営員認定講習、競技運営研修、日山協公認クライミング競技C級審判員認定講習を行います。各連盟関係者の皆さんの多数のご出席をお願い致します。

平成19年度競技委員会近畿ブロック研修会 実施要綱

趣旨 国体山岳競技の審査・運営にあたる審判員の育成と資質の向上を図るため、山岳競技に関する競技運営員の認定講習及び山岳競技規則の内容についての運営研修を行う。また日本山岳協会公認クライミング競技C級審判員資格の認定講習も行う。

参加資格

- (1) 国体競技運営員認定研修は、所属岳連(協会)会長より推薦された者
- (2) 競技運営研修は、国体審判員の資格があり所属岳連会長より推薦された者
- (3) 日本山岳協会公認C級審判員認定研修は、所属岳連(協会)会長より推薦された者
- (4) 山岳競技に興味のある者

期日 平成20年2月2日(土)～3日(日)

会場 近江希望が丘ユース・ホテル TEL077-578-2201

滋賀県野洲市北桜978(希望が丘文化公園西ゲート)

尚、ボルダリング実習はKO-WALL TEL077-554-3515

栗東市小柿2丁目8-2 で行う

日程

2月2日(土)

12:30～13:00 受付(ユース・ホテル玄関)

13:00～13:30 開会行事・オリエンテーション・諸連絡

13:40～17:40 研修

競技運営員認定研修	競技運営研修	C級審判員認定研修
山岳競技概論	第61回秋田国体報告	国際競技規則
一般登山と山岳競技	日山協組織改革について	実技研修
山岳競技の歴史		KO-WALL移動
規則集購読	大分国体からの変更点	ボルダリング研修
実技研修	実技研修	模擬コンペ

18:00～ 夕食・交流会・入浴

19:30～

C級審判員認定研修

秋田国体報告

競技審査事項

ボルダリング

ジャパンカップ

日程 2月3日(日)

7:00~7:40 朝食・諸連絡

8:00~11:00 研修

競技運営員認定研修 競技運営研修  
討論とまとめ 競技規則集の確認

11:30~12:00 閉校式

C級審判員認定研修  
競技審査事項まとめ

12:10~13:00 昼食

13:10 認定試験説明

筆記試験

結果発表

16:00 終了予定

参加費等

参加費 1000円(日山協へ納付)

宿泊費 8000円(昼食は各自)

規則集 1000円(新しい規則集を購入ください)

KO-WALL利用料 2000円(C級審判員認定研修のみ)

申し込み方法 別紙1を必要部数コピーし、必要事項を記入して申し込む  
別紙2を両面コピーし、記入して持参(C級審判のみ)

申し込み先 滋賀県山岳連盟 競技委員 小林広幸 滋賀県立八幡高校  
〒523-0031 近江八幡市堀上105 TEL0748-33-2302

FAX0748-32-4051

FAXの場合は当日正式書類をご持参ください

申し込み期日 1月25日



## KO-WALL 利用申込書

氏名	フリガナ	性別	生年月日	
		男 女	年	月 日
住所	〒			
電話番号		FAX		
学校名 <small>高校生以下のみ</small>	中学 高校 学年 年 ( 年 月 現在)			
緊急連絡先 <small>※高校生以下の場合保護者</small>	氏名			性別
	住所			
	電話番号			

誓約書

## KO-CLIMB 殿

今後施設利用にあたり、施設内において本人に起因する全ての怪我・事故は、本人の責任において処理し、KO-CLIMB およびスタッフに対しいかなる責任も追及しないことを誓約し利用を申し込みます。

\* この申込用紙の有効期限は署名日より5年間とします。

年 月 日

ご署名 \_\_\_\_\_

高校生以下の場合 保護者ご署名 \_\_\_\_\_

\*この申込用紙に記載されている個人情報(「個人情報保護法」に基づいて取り扱い、KO-WALL 内における緊急連絡時のみ利用致しませ

年月					
担当					

## インフォームドコンセント

### Climbing space KO-WALL

当施設はボルダリング専用施設です。ボルダリングというのはクライミングの一分野でロープを使わず飛び降りられる範囲(通常1～5m)で行われているクライミングです。当施設は高さ4mの壁を破壊し着地するために厚さ2.0cmのマットを敷き詰めておりますが、これは着地する際の衝撃を和らげるためのものであり、全ての墜落に対応しているわけではありません。着地の際は必ず下に人がいないかを確認し足から安全な姿勢で着地してください。またルート中の接触にも十分注意し利用者同士が譲り合って事故の無いように努めてください。

理解した

本人	保護者
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### クライミングの危険性について

クライミングには「死」をも含む危険性が付きまといます。逆に危険があるからこそクライミングが成り立っているともいえます。クライミングをするものは危険に対する自己意識を持ち自分で自分をコントロールしなければなりません。クライマーは常に危険を意識し他人任せでは無く自分の身は自分で守るということを前提にクライミングしなければなりません。クライミングでは子供だからといってクライミングにおける危険を無くすることはできません。子供であろうが大人であろうが初心者であろうがエキスパートであろうが誰にでも危険が等しくあるということです。クライミングする前にこの事を十分理解しておかなければなりません。

理解した

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

この施設を利用することは本人及び保護者の自己決定にもとづく自主的なものである。

はい

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

この施設においては施設傷害保険が準備されていないのを承知している。  
(賠償責任保険は準備されております。\*1事故最大1億円)

はい

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

### 施設内での危険性(可能性:高→低)

事故として考えられる可能性の高いものとして下記について理解しておいでください。事故の程度としては一概にはいえませんがすべての事象について死亡事故に繋がる可能性を含んでいることを理解しておいでください。

- ・墜落時及び飛び降りた時における着地の失敗。(高)
- ・墜落時及び飛び降りた時に下にいる人との接触。(高)
- ・ルート上(壁の中)での他者との接触。(高)
- ・ホールドの回転・破損による事故。(中)
- ・クライミング中の身体の酷使による事故及び障害。(高)

### 事故参考例

- ・墜落時に着地に失敗し足首を骨折。
- ・飛び降り時に下の人と接触。飛び降りた本人は打撲。下の方は腰椎骨折で下半身不随。
- ・壁の中で他者と接触。お互い墜落して足首捻挫とひざの靭帯損傷。
- ・不意にホールドが破損。破損したホールドの破片で指を2針縫う怪我と着地の状態が長く肩関節脱臼。
- ・1.5cm四方の壁がホールドとともに破損。墜落したが幸い無傷に終わった。
- ・クライミングのしすぎで指関節に炎症を起こした。(スポーツ障害) など等・・・

上記の可能性について理解した

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------